日野川の源流と流域を守る会

会報

ひのがわ

第43号

日野川フォトコンテスト２０２２　一般部門　応募作品
題　名：最高のパートナー
撮影者：細田　眞徳
撮影地：日野町根雨

＝目　次＝

●森林整備体験と木谷川自然観察会／ 日野川源流探訪 …… 2
●日野川支流の魅力発見ツアー …… 3
●日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会 …… 4
●学ぼう！遊ぼう！みんなの日野川学校 …… 5
●川海の繋がり体験 …… 6
●日野川の源流と流域を守るために …… 7
●藤原自然保護監視員の季節の植物紹介／会員募集 …… 8

森林整備体験と木谷川自然観察会

（令和５年５月２０日）

各自が、間伐した方がよいと思う木に目印のテープを巻きます。

サンインシロカネソウ

サイハイラン

ミヤマハコベ

会員11名に参加いただき、日南町において「森林整備体験と木谷川自然観察会」を開催しました。森林整備体験では、木が密集することでその成長が妨げられるのを防ぐため、林業従事者の栩木建明（とちぎたつあき）氏の指導の下、間伐すべき杉の木に参加者各自が印をつけていきました。午後は、木谷川に場所を移し、林の中から聞こえる鳥の声を聴きながら野鳥の専門家で本会の幹事長でもある達磨氏から野鳥の生態について解説いただきました。また、藤原文子（ふじはらふみこ）自然保護監視員のイラストを使った植物の説明はわかりやすく好評でした。

日野川源流探訪

（令和５年９月３０日）

今年の「日野川源流探訪」は、９月に開催しました。講師は大山自然歴史館の矢田貝繁明（やたがいしげあき）館長、にちなん中国山地林業アカデミー教員の須山里実（すやまさとみ）氏、パークレンジャーの佐藤幹太（さとうかんた）氏、藤原文子自然保護監視員です。道すがら、植物の話、木材・林業の話を聞き和気あいあいと歩きました。

源流の碑を目指して進むにつれ、下流で豊かな水を湛えていた流れは、両側に山が迫る谷の中を遡っていきます。参加者からは「こんなに細い流れから始まってあの日野川になるのか」と感嘆の声が聞かれました。

また、道中、花弁の斑点が夜明けの空に見立てられたアケボノソウや、生息地が限定され個体数が少ないチュウゴクブチサンショウウオに出会うことができたのは、源流に育まれた自然の豊かさを知る嬉しい発見でした。源流の碑に到着した後は、皆さんの手を借り、源流の碑についた苔を取り除きました。

アケボノソウ

チュウゴクブチサンショウウオ

今回、募集定員を大幅に上回る方に応募いただき、誠にありがとうございました。ご希望に添えなかった皆様には申し訳ございませんでした。この日野川源流探訪は本会の核となるイベントです。来年以降も継続して実施してまいりますので、今後の御参加をお待ちしています。

注意　源流の碑は国有林の中にあるため、入林する際は事前に森林管理署への入林届の提出が必要です。また、国有林野の土地や樹木等は、国が管理している国有財産であり、各種法令により動植物の捕獲・採取・伐採等の行為が制限されています。無断でこれらの行為を行った場合は、法令に基づき罰せられることがあります。

日野川支流の魅力発見ツアー

（令和５年６月１８日）

33名の皆さんにご参加いただき、日野川の支流にスポットを当てた新企画、「日野川支流の魅力発見ツアー」を俣野川が始まる鏡ヶ成湿原を舞台に開催しました。

午前中は、バイケイソウが咲き乱れる湿原の中の木道を歩き、野鳥・植物・昆虫・両生類に詳しい５名の専門家による解説を聞きました。事務局からは、湿原を維持していくための山焼きや選択的草刈りの取組について説明しました。湿原の奥では、分水嶺を見上げながら、足元の湿原から染み出た一滴が、やがて大きな流れとなり、日野川に合流することが感じられるひとときを過ごしました。

午後からの自然学習歩道では、サワギクのそばを通り、野鳥の声を聞きながら、森の中の生き物を観察しました。デッキから河原に下り、鏡ヶ成の清流に棲むゲンジボタルの話を聞いたり、景観保全の取組で見晴らしが改善した展望地の景色を眺めたり、トロッコ列車の軌道跡を見学しました。盛りだくさんで、支流の魅力を発見できた一日となりました。参加者からは、「日野川は米子方面を流れる大きな川という印象が強かったけれど、このツアーのおかげで支流について勉強することができました。」といった感想を頂戴しました。

サワギク

アサギマダラ

木道からバイケイソウを観察

湿原から滲みだした水が、流れとなる

自然学習歩道で野鳥の姿を探す

バイケイソウ

池の周りで
モリアオガエルの卵塊を発見

日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会

新型コロナの影響で中止が続いていた日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会を３年ぶりに開催しました。ＮＰＯ法人日本ハンザキ研究所理事長　岡田純（おかだ　すみお）氏を講師に迎え、日野学園の小学生約40名、日野高校アグリライフ系列の２年生８名が日野町近江川で水生生物の生態調査を行いました。

子どもたちには岡田講師に見つけていただいたオオサンショウウオを間近で観察してもらいました。中には体長１ｍ近い個体もいて、岡田講師から「魚やカエル、水生昆虫が沢山いて、環境が整っているからこそオオサンショウウオが棲めるので、生き物を探したり、川で遊んだりした経験を基に地元の自然を大切にして下さい。」とお話がありました。

日野学園（令和５年８月３日）

低学年の子も高学年の子も、一人一人が自分のタモと虫かごを持って川の中を歩きました。水草の中にタモを入れて揺すり生き物を探す子、川遊びに夢中な子、カジカガエルのオタマジャクシを捕まえた子と、それぞれが川と触れ合う体験を楽しみました。

水生生物観察会の経験がある子は生き物の名前を良く知っていて、「ヒゲナガカワトビケラだ～」という声が聞こえてくるなど、にぎやかな体験学習会となりました。

体験学習会を終えた子どもたちは、「たくさんの生き物がいる環境を守るために、川にごみを捨てないように気を付けたい。」と、話してくれました。

▲午前の部　何がとれるかな？

▲午後の部　難関を越えてさらに上流へ

日野高校（令和５年９月14日）

全身ずぶ濡れになっても気にせず、川の中を進む生徒たちは、色々な生き物を捕まえては歓声をあげて、楽しそうな反応をしてくれました。自然環境を守ることについて興味関心を持っているようで、将来の自然は彼らが守ってくれるのではないかと思えるくらい頼もしかったです。

▲下流まで流されてみようかな

▲オオサンショウウオの卵を初めて見たよ